

平成 25 年 10 月 7 日

各位

会 社 名 株式会社市進ホールディングス
 代表者名 代表取締役社長 下屋 俊裕
 (JASDAQ コード番号 4645)
 問合せ先 取締役統括本部副本部長 竹内 厚
 (TEL 047-335-2888)

平成 26 年2月期第 2 四半期累計業績予想の修正、のれんの減損損失計上、
 及び繰延税金資産の取崩し、並びに役員報酬の減額に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成 25 年4月 11 日に公表しました平成 26 年2月期第2四半期累計業績予想を修正いたしますのでお知らせいたします。同期間において、のれんの減損損失の計上、及び繰延税金資産の取崩しを行いますのでお知らせするとともに、役員報酬の減額を実施しますので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 26 年2月期第2四半期累計業績予想の修正について

平成 26 年2月期第2四半期連結累計期間の業績との差異(平成 25 年3月 1 日～平成 25 年8月 31 日)
 (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	9,336	△271	△276	△376	△41円64銭
今回修正予想(B)	8,834	△410	△427	△923	△102円21銭
増減額(B-A)	△502	△139	△151	△547	—
増減率(%)	△5.3	—	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成 25 年 2 月期第2四半期)	9,450	△702	△719	△898	△99円50銭

・修正の理由

売上高におきましては、学習塾「市進学院」(株市進)の生徒集客のうち、特に集団授業の生徒数において当初見込みよりも厳しい状況で推移しており、これが予想を下回る主要因となっております。集団授業の集客増加のための対策といたしましては当連結会計年度から、従来小中学生を兼任していた教務スタッフについて小学生担当と中学生担当に分担し、専門化を図りました。これによりそれぞれの授業前後の時間活用が可能になり、小学生は中学校受験進学指導の強化、中学生では定期テスト対策や公立高校進学へ向けた受験指導の強化ができる体制となり、これまで以上の手厚いめんどうみサービスの提供を行うことで顧客満足度の向上を図っております。小学生につきましては、徐々にこの効果が顕われ、生徒数も回復基調に入ってきましたが、部活動などで授業前後の時間を確保しにくい中学生では小学生と比較して回復が遅れており、更なる

工夫・改善を図ります。その結果、上半期の小中学生全体においては当初予想生徒数の集客までには至りませんでした。また茨城県で展開している学習塾「茨進」(株茨進)については、昨年度生徒数が減少傾向にあった茨城地区の「市進学院」を統合し、立ち上がり生徒数の回復に注力しつつ夏期講習にかけて順調に生徒数を伸ばしてきましたが、生徒数一人あたりの単価の向上が課題となっております。

学習塾・集団授業以外におきましては、個別指導塾「個太郎塾」を運営する(株)個学舎において、一部直営店をFC化したことで売上高自体は前年同期比で減少しておりますが、営業利益面では大幅な増加を見せております。また、全国で映像授業販売を行っている(株)市進ウイングネットでは加盟校拠点数が前年同期比 100 拠点以上増加し、(株)市進総合研究所では小学校受験の「桐杏学園」と(株)学研エデュケーショナルのFCとして展開している幼児向け能力開発教室「ほっぺんくらぶ」において生徒数が前年同期比1.5倍以上増加するなど売上高を順調に伸ばしており、各社とも連結営業利益の改善に貢献しつつあります。

一方、経費面におきましては、業務効率化や人員配置の見直し等による人件費の節減や拠点統廃合などによる賃借料等施設費の見直し、社内流通システムの改善、また印刷費においては紙媒体での情報発信をホームページ上で行うなど様々な経費節減策に取り組んでおり、その他の細かな経費においても当社グループ全社において節減努力を続けております。

この結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は 8,834 百万円(前年同四半期比 93.5%)、営業損失は 410 百万円(前年同四半期営業損失 702 百万円)、経常損失は 427 百万円(前年同四半期経常損失 719 百万円)となります。売上高は前年を下回りますが、経費節減努力により、営業損失・経常損失ともに前年同四半期より 292 百万円改善しております。日本語学校を運営している(株)江戸カルチャーセンターののれん 193 百万円については減損損失を計上いたします。また、9月 27 日付開示の通り、旧茨進千波笠原校の土地・建物を売却することにより 81 百万円の減損損失を計上いたします。この結果、四半期純損失は 923 百万円(前年同四半期純損失 898 百万円)となっております。

2. のれんの減損損失の計上について

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの連結子会社であり、日本語学校を運営している(株)江戸カルチャーセンター(100%出資)ののれん 193 百万円について減損損失を計上いたします。減損判定に至った経緯につきましては、今年度の生徒数自体は東南アジア各国からの集客努力により増加傾向にあるものの、前々年度および前年度の東日本大震災の影響による生徒数の減少が予想以上であった点、生徒集客の主要対象国である中国においては社会情勢などにより集客の減少に大きな影響を受けた点、また当初自社物件での日本語学校開校を計画しておりましたが、グループ全体での経費節減の必要性から、この計画を中止した点などを考慮し、保守的に捉えた結果であります。

3. 繰延税金資産の取崩しについて

当期の業績見通し等を踏まえて、繰延税金資産の回収可能性を「税効果会計に係る会計基準」に基づき慎重に見直した結果、回収が見込めないとされる部分について取り崩すこととし、法人税等調整額を約 170 百万円、当第 2 四半期連結累計期間において計上する見込みです。

4. 役員報酬の減額について

当社は、平成26年2月期第2四半期累計業績予想の修正を真摯に受け止め、今後の業績向上を期すべく、代表取締役社長、その他の取締役、グループ会社取締役の役員報酬を以下のとおり減額いたします。昨年度より役員報酬を減額いたしておりましたが、10月以降も減額を継続いたします。

(1) 役員報酬の減額の内容

対象者	報酬減額の内容
代表取締役社長 その他の取締役	役員報酬月額の 15%～30%を減額
グループ会社取締役	役員報酬月額の 15%～30%を減額

(2)対象期間

平成 25 年 10 月から平成 26 年 2 月まで

以上、これらにもなう期末業績予想に与える影響につきましては、現在精査中であり、判明次第改めて発表させていただきます。

以 上